



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



一般社団法人地域連携ネットワークみえ

三重県伊勢市御薗町長屋1963(株)エホ・リユ・シヨ内

(☎0596-63-5080 FAX0696-65-7006)

E-mail info@3c-mie.net <https://3c-mie.net/>

厳しい酷暑がやや緩み始めたと思えば、線状降水帯による大きな被害が連日報道されています。まさに戦国時代の水攻めを思わせる様相に目を覆ってしまいます。これは自然からの報復だという人からは、まさに人災と言えるでしょう。今回、被害のなかった地域でも明日は我が身として備える心構えが必要でしょう。さて、今回は最近入会いただいた皇學館大学の萩原先生にご投稿をいただきました。

「相手を惹きつける術(すべ)」



先月、度会郡4町の幹部のみなさんに上記のテーマで講演をさせていただきました皇學館大学の萩原浩司(はぎわらこうじ)です。

今回は貴重な機会を与えていただき、ありがとうございました。

私は現在皇學館大学の教育学部で教員をしておりますが、もともと四日市市の公立小学校で教員をしておりました。大学では主に、小学校の先生を目指す学生たちに社会科に関する講義をしております。先生を目指す熱心な学生が講義に参加してくれますので、大学教員側としても学生が「面白かった!」と思ってくれるような講義をしようと心がけております。

しかし、こちら側が「面白いだろう」と思って話しても、学生側が「面白い」と思ってくれない時もあります。学生を惹きつけられるような講義をするために毎日悪戦苦闘しております。

そのような中で、本ネットワークの川井さんにご縁をいただき、今回のセミナーでお話をさせていただきました。ここでは、講演の内容について、簡単にご紹介できればと思います。

セミナーでは、度会郡4町の行政のお仕事に携わっておられる方々に向けて講演をさせていただきました。行政の方々への講演ですので、私が普段学生にしている話では不適當だと思いましたが、行政の方々も若手の職員や地域の若者たちとのコミュニケーションに難しさを感じていらっしゃるのではないかと思います。若者を惹きつける術(すべ)をテーマとして講演をさせていただきました。



①若者が夢中になる「お仕事」とは?

講演では最初に若者が夢中になる仕事について話をしました。小学校で働いてきた時の感覚からすると、子どもたちは働くことにとても強い興味を持っていますし、自身の将来の就労についても前向きに明るく捉えています。こういった子どもたちや、若者たちの良いところに目を向けることから講演を始めたいと思いました。

私の経験で恐縮なのですが、若い頃に先輩の先生たちから、色々な授業を見せてもらいました。その中で強く印象に残っている授業があります。その授業では、地域の味噌屋さんを扱っていました。100年以上続く、老舗の味噌屋さんなのですが、後継者がいなくて困っているということでした。味噌屋さんを見学した子どもたちは、「木の樽じゃなくてプラスチックの大きな樽で工場みたいに作ればいいのに」

と、当初は考えていました。しかし、こだわりの味を守っている社長の人柄に触れる中で、「この味噌の味を守らなくてはダメなんだ」と、味噌屋さんの仕事について、夢中になって考えるようになっていきました。これは、「木の樽でないと良い味が出せない」といった仕事の「意外性」と、こだわりの味を守り続けてきた社長の「人柄」に子どもたちが触れた結果だと思います。若者が仕事に夢中になる瞬間とは、このような仕事の「意外性」と、仕事に携わっている人たちの「人柄」に惹かれた時ではないでしょうか。

②若者が目を輝かせる瞬間とは？

講演では次に、有田和正氏(1935～2014)の話をしました。有田氏は、面白い授業をつくる名人で、授業で使う教材開発の達人です。その有田氏が大事にしていたことは、「固定観念をひっくり返す」ということでした。

有田氏が考えた授業は、長さ3mのサトウキビを教室へ持ち込み、「どうして、みんな同じところで曲がっているの？」と問いかけて沖縄の人々の暮らしの学習をしたり、「東京 23 区内に牧場はあるだろうか？」と問いかけて畜産の学習をしたり、「鉄砲の値段は、どのくらいでしょう？」と問いかけて歴史の学習をしたりと、どの授業もユニークで魅力にあふれています。

有田氏は子どもたちの知的好奇心を信じていました。そんな有田氏の授業の魅力は、先入観や固定観念、思い込み、常識といったものを揺さぶって、子どもたちが思わず「え！うそ！」、「絶対おかしい！」、「そんなありえない！」と、叫んでしまうような導入から、子どもたちが進んで課題を追究していく授業展開にあると思います。若者も含めて私たちも、子どもたちと同様に、自分の固定観念が揺さぶられて、「え！うそ！」と思う時、知的好奇心が芽生えて思わず目を輝かせて聴き入ったり、考え込んだりするのではないのでしょうか。そんな瞬間を得ることが、若者の目を輝かせる秘訣だと思います。



③若者が憧れを抱く時とは？

3つ目にお話したことは、私自身の体験談です。私は皇學館大学の出身です。学生時代に恩師の深草正博先生と出会い、研究の道に入っていました。深草先生は、ご専門が広く、フランス近世史から社会科教育、グローバル教育、道德教育と様々なご研究をされています。

私が初めて深草先生の大学の研究室にお邪魔した際に、その書棚の本の量にびっくりしました。「こんなに本を持っている人がいるのか、こんなに勉強している人がいるのか」と圧倒されました。そこで「この人は本物だ、ついていこう」と感じました。

若者が憧れを抱くのは、モノではなくヒトだと思います。憧れを抱くと、その人の言うことを進んでするようになります。学生時代に深草先生に「明治の書生は『デカンショデカンショで半年暮らす♪』と歌っていたんだぞ」とお聞きし、そのデカンショの中身が、デカルト、カント、ショーペンハウアーのことだと教えて頂き(諸説あります)ました。私はすぐに書店に行き、3名の哲学者の本を買い込み、わかりもしないのに読み耽った思い出があります。

若者を惹きつけるポイントというのは、おおよそこのようなものであらうと思います。今後も学生たちを惹きつけられるような講義ができるように精進していきたいと思います。

後記 いろんな方のお話を聞くのは、まさしく自分自身の肥やしになります。
これはいくつになっても変わりませんね